

「阿蘇の草原キッズになろう！」

- [主 催] 国立阿蘇青少年交流の家
[共 催] 阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会
[後 援] 熊本県教育委員会・阿蘇市教育委員会
[期間・参加者]

- 〈教 員 編〉平成24年 8 月 8 日(水)
阿蘇市内教員11名、行政・NPO関係者 7 名、県外教員 2 名
〈秋 編〉平成24年10月11日(木)～10月12日(金) 1泊2日
阿蘇市立宮地小学校 5 年生82名、引率教諭 5 名
阿蘇市立古城小学校 4 年生16名、引率教諭 3 名
〈野焼き編〉①平成25年 2 月22日(金)
阿蘇市立坂梨小学校 4, 5 年生33名、引率教諭 3 名
②平成25年 2 月26日(火)
阿蘇市立碧水小学校 5 年生41名、引率教諭 2 名
阿蘇市立乙姫小学校 5 年生11名、引率教諭 2 名
③平成25年 3 月 5 日(火)
阿蘇市立宮地小学校 5 年生83名、引率教諭 5 名

[実施場所] 国立阿蘇青少年交流の家、町古閑牧野、小堀牧野

1 趣 旨

〈教員編〉

草原環境学習小委員会で検討し、作成した教育課程への位置づけをめざす草原環境学習プログラムについて、学校職員等への周知の場を設定する。

〈秋編・野焼き編〉

阿蘇の草原環境の現状を学ばせるとともに、草原維持活動の直接体験をととして、草原環境保全への意識を高めることができる草原環境学習プログラムを考える。

2 目 標

〈教員編〉

- 研修をととして、阿蘇の草原環境の現状と課題について理解し、草原再生活動の必要性を知ることができる。
- 草原環境プログラムの実際を体験することで、具体的なプログラム内容やその実践方法、連携機関等について理解することができる。

〈秋編・野焼き編〉

- 草原再生にかかわる体験活動や学習をととして、阿蘇の草原環境の現状と課題を理解させるとともに、草原環境への興味・関心を高めることができる。
- 本事業をととして、阿蘇の草原を守っていくためにはどうしたらいいか、自分の考えをもつことができる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

〈教員編〉

7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
		開会行事		阿蘇の草原について 〈研修Ⅰ〉		野外での弁当昼食	〈研修Ⅱ〉 フィールドワーク	・赤牛とのふれあい 体験 ・草原学習	事例発表・意見交換 〈研修Ⅲ〉	閉会行事						

〈秋編〉※事業前に、各学校で事前学習を実施した。

7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
	学校出発	移動	〈草原散策Ⅰ〉 ・町古閑牧野	〈草原散策Ⅱ〉 ・波野トラスト地	移動	昼食	開講式	準備・移動	草小積み作り体験	移動	夕食・入浴・休憩		〈草原環境学習〉 ・劇の鑑賞による学習	就寝準備	就寝	
7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
起床・洗面等	朝の集い	朝食	宿舎清掃・退所点検	赤牛とのふれあい体験 ・赤牛についての学習 ・牛の体のネーミング ・えさやり体験	ふりかえり・閉講式	移動	学校到着									

〈野焼き編〉※事業前に、各学校で事前学習を実施した。

7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
	学校出発	移動	松明作り	野焼き体験	ふりかえり	移動	学校到着									

(2) 目標達成のための手立て

① 学校との連携

〈教員編〉

参加募集に関しては、阿蘇郡市内校長会において広報し、更に各小中学校へ直接訪問を行った。また、草原環境学習を教育課程に位置づけている草原学習モデル校の先生に事例発表を依頼し、参加者が具体的な指導内容や指導法等について理解しやすいようにした。

〈秋 編〉

阿蘇市内の小学校2校と連携を図った。プログラムは、担任の先生と施設職員、草原環境学習小委員会のメンバーで、学習として取り組みたい内容を協議し、内容を決定した。学校ではできない現地での体験活動をメインとし、1日目の6時間と2日目の午前中4時間の授業時数を使って行った。宿泊を伴う活動であったので、夜に学習を取り入れ、昼間は野外での活動を多く取り入れた。

〈野焼き編〉

秋編に参加した学校だけでなく、広く阿蘇市内の小学校に呼びかけ、4つの小学校と連携することができた。事前学習と野焼き体験との2日間に分け、事前学習は学校に出向いたり、合同で



行ったりするとともに、希望に応じた内容を実施し、学校が参加しやすいようにした。野焼き編でも学習として位置づけ、各学校の授業時数を4～6時間使って平日に開催し、学校現場で使える効果的な草原環境学習プログラムを検証できるように工夫した。

② 阿蘇草原再生協議会との連携

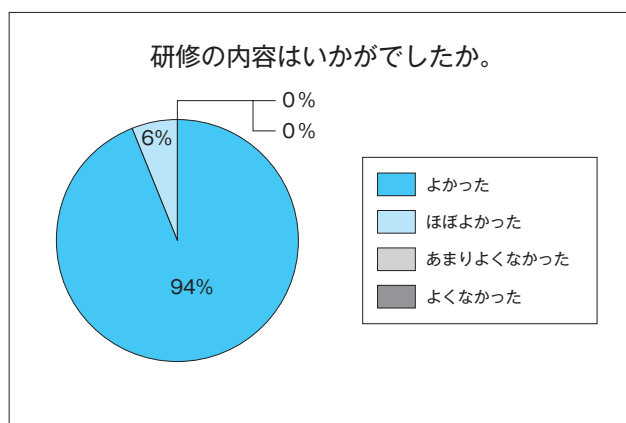
秋編・野焼き編ともに環境省が中心となって組織された阿蘇草原再生協議会の草原環境学習小委員会と協働で実施した。草原環境学習小委員会のワーキンググループを定期的に開催し、プログラムの内容や実施時期・場所等について協議し、メンバーが積極的に運営にかかわるようにした。さらに、草原環境を子どもたちが理解しやすいように、草原環境学習小委員会のメンバーによる学習劇をプログラムの中に取り入れた。



4 結果

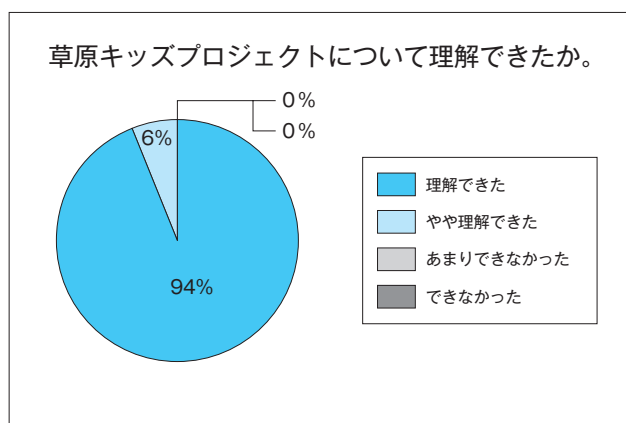
参加者の事後アンケートの結果は、以下のとおりである。

〈教員編〉



【参加者の声】

- 学習と体験とがあり、1日の研修で多くのことを学べた。
- 小堀牧野組合長（田島氏）・町古閑牧野組合長（市原氏）のお話が大変興味深かった。草原を大切にしている気持ちが伝わった。
- 内容が豊富だが、時間が短かった。2日間で十分な内容だった。

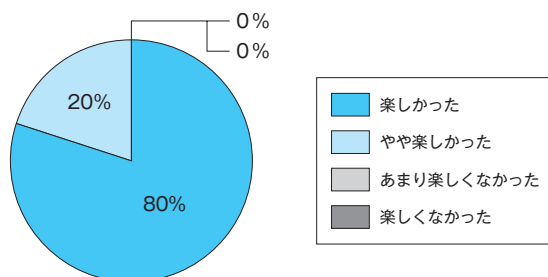


【参加者の声】

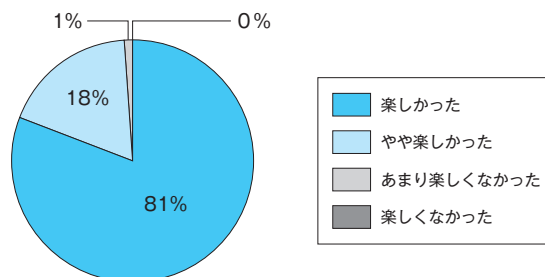
- 実際のプログラム内容を、体験活動や事例発表等をとおして知ることができた。
- 学習プランを実際にどのように取り組んでいくか、参考になった。
- 環境保全教育は非常に大切なことなので、各小中学校に、どんどん普及していく必要がある。

〈秋編〉

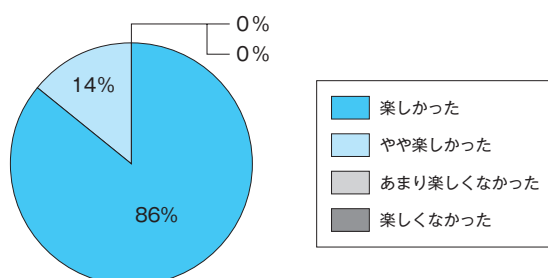
草原散策（町古閑牧野・波野トラスト地）



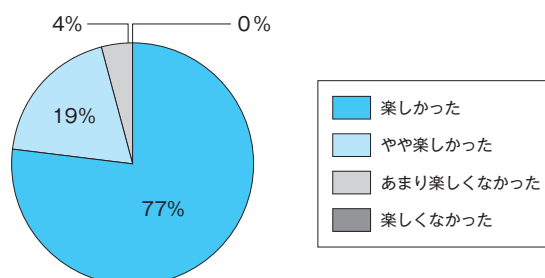
草小積み作り体験



劇の鑑賞による草原環境学習



赤牛とのふれあい体験



【参加者の声】

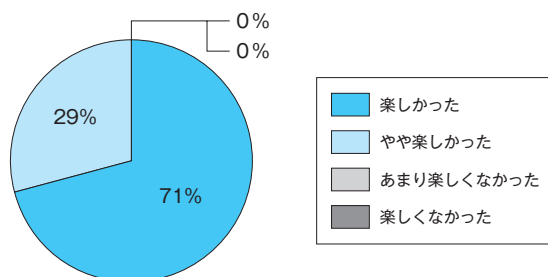
- 草小積みでは、稲手で結ぶのが難しかったけど、どんどん練習するとしっかり締めることができたので、とてもうれしかった。
- スタッフの皆さんの劇は分かりやすく、楽しく草原について勉強することができた。
- 餌やり体験で、牛の舌がザラザラしていることを知った。牛の背中に自分たちで考えたメッセージを書くことができた。その牛が元気になっているか、今度見に来たい。



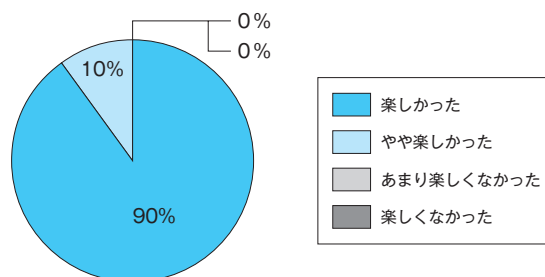
野焼き体験

〈野焼き編〉

野焼き体験



火消し棒作り体験



【参加者の声】

- 火消し棒作りで、竹をカズラで編んでいくコツを少しずつつかめてきて、楽しくできた。
- 阿蘇の草原には野焼きが欠かせないことがよく分かった。これからは、私たちが主役になって、草原を守っていきたい。
- 自分たちで作った火消し棒で火が消せて良かった。ボランティアの方々の苦勞が分かった。

5 成果と課題

(1) 成 果

〈教員編〉

学校の先生方が、草原環境プログラムの実際を体験することで、具体的な学習内容や実践方法、連携機関等について、本プログラムについて深く理解でき、更に、環境保全活動の必要性を再確認し、子どもたちへの指導の重要性を知ることができたと考えられる。

〈秋編・野焼き編〉

阿蘇市内の環境保全にかかわる団体との連携事業することで、「草小積み体験」、「赤牛とのふれあい体験」、「野焼き体験」等、すべての活動において、専門的でかつ児童に分かりやすい内容で、充実した活動プログラムができた。

また、事前学習を実施することにより、当日の活動への意欲付けや安全指導等の充実を図ることができた。

(2) 課 題

〈教員編〉

来年度は、教員編を発展、充実させ、草原学習指導者養成事業として実施する。募集対象を教員のみではなく、地域の方々に広く呼びかけ、地域における指導者の育成に努める。

〈秋編・野焼き編〉

阿蘇市内の小学校ができるだけ多く、このような草原学習をできるように、広めていきたいが、参加希望校数や参加人数が多い場合の対応についても考える必要がある

〈教員編〉企画指導専門職 高野 茂樹
〈秋編・野焼き編〉企画指導専門職 小藺 正臣